

C S R
環境報告書
2018



JFE プラリソース 株式会社

報告対象期間：2017年4月～2018年3月 一部、継続・直近の活動を含みます。

企業理念

「JFEプラリソース株式会社は、
環境と調和した社会の構築に貢献します。」

行動規範

「挑戦。柔軟。誠実。」

近年、自然災害の件数また深刻度が増しております。

被害を受けられた皆さまに、

謹んでお見舞い申し上げます。

目次

ご挨拶	4
会社概要	5
JFEプラリソースのCSR重要課題	6
品質環境マネジメント	
品質環境マネジメントシステム	10
環境への取り組み	15
ソーシャルコミュニケーション	
お客様・お取引様とともに	20
地域社会のみな様とともに	21
行政とともに	22
従業員とともに ～安全は全てに優先する～	24
従業員とともに ～働きがい・潤いのある職場づくり～	30
コーポレートガバナンス	31
事業紹介	34

CSR・環境報告書 2018 電子版は、以下のサイトでご覧いただけます。

- ・ JFEプラリソース株式会社 <http://www.jfe-plr.co.jp/>
- ・ CSR図書館.net <http://csr-toshokan.net/>
- ・ 福山市次世代エネルギーパーク 施設紹介 <http://fukuyama-energypark.com/guide/>

ごあいさつ

資源循環型社会づくりへ貢献

代表取締役社長

田村 望



JFEプラリソース株式会社は2009年7月、JFE環境株式会社の『容器包装プラスチックリサイクル事業』を会社分割して承継しました。以来、高炉やコークス炉へのプラスチック利用及び材料リサイクルを含めたプラスチックリサイクル事業を通して、資源循環型社会づくりに努めております。

NFボード®を利用した材料リサイクルにより『廃プラスチックリサイクル推進とCO₂削減』、更に使用後再リサイクルすることにより『化石燃料削減』等を実現しています。環境に優しい企業として、市民の皆様へのリサイクルの『見える化』に注力し、各種リサイクルを推進しております。

また、環境保全は本事業の根幹であり、事業活動に伴う環境負荷をできるだけ少なくするために、全員参加型の環境マネジメント活動を継続展開し、トップレベルの環境配慮型企業を目指します。

現場パワーアップを通して働きがいのある会社として、社員一同一致団結して『創意・挑戦・創造』する会社づくりに向け頑張っていきたいと考えております。

弊社に対し、より一層のご支援とご愛顧を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

代表取締役社長

田村 望

会社概要

会社名 J F E プラリソース株式会社
代表者 代表取締役社長 田村 望 (2018年4月現在)
役員 取締役 鈴木 克紀 武井 信広 赤木 功 朝比奈 健
監査役 岡田 宜之

設立年月日 2005年11月
2009年3月登記(定款・社名変更)
資本金 90百万円
売上高 38億円(2017年度)
従業員数 約80名
住所 本社・京浜事業部 〒210-0866 神奈川県川崎市川崎区水江町5番地1
TEL 044-299-5193 FAX 044-299-5328
福山事業部 〒721-0956 広島県福山市箕沖町113番地
TEL 084-981-3160 FAX 084-981-3170
URL <http://www.jfe-plr.co.jp/>

事業内容 一般廃棄物の再資源化およびリサイクル事業
上記事業に関する技術・装置および再生プラスチック商品の販売
沿革 2000年4月 水江原料化工場稼働(処理能力 242 t/日)
福山原料化工場稼働(処理能力 254 t/日)
2002年9月 N F ボード製造工場稼働
2009年7月 J F E 環境株式会社から容器包装プラスチックの
リサイクル事業を承継
J F E スチール株式会社が全株式取得



京浜事業部
水江原料化工場



京浜事業部
N F ボード製造工場



福山事業部
福山原料化工場

JFEプラリソースのCSR重要課題

JFEグループのCSR重要課題（マテリアリティ）

JFEグループは、5分野・13項目のCSR重要課題を特定しています。

● 特定したCSR重要課題

特定したJFEグループのCSR重要課題は、以下の5分野・13項目です。
 当社グループは、あらゆる事業活動および社会活動において基本となる人権を尊重しながら、公正かつ透明性の高いコーポレートガバナンスを基盤として、これらのCSR重要課題の取り組みを推進していきます。CSR重要課題への取り組みは、「世界最高の技術をもって社会に貢献します。」という企業理念の実践であり、これらを通じてグループの持続的な成長と持続可能な社会の実現への貢献を目指します。

企業理念 常に世界最高の技術をもって社会に貢献します。

課題の分野		内容	CSR重要課題
事業活動	良質な商品の提供とお客様満足度の向上	<ul style="list-style-type: none"> ● 優れた技術に基づいた商品とサービスの提供 ● 安全で高品質な商品の安定供給を継続 ● お客様の課題の解決 	商品安定供給
			品質確保
			研究開発の推進
			お客様ニーズへの対応
	地球環境保全	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境負荷低減 ● 循環型社会の実現に貢献 ● グループの技術力を活かし環境保全に貢献する商品を開発 	環境配慮商品の開発と提供
			地球温暖化防止
			大気環境の保全
			資源循環の推進
	労働安全衛生の確保	<ul style="list-style-type: none"> ● 安全はすべてに優先する ● 社員とその家族のこころとからだの健康の維持と、働きがいのある職場を構築 	労働災害の防止
			社員とその家族の健康確保
	多様な人材の確保と育成	<ul style="list-style-type: none"> ● 全ての人材がその能力を最大限発揮できる環境を整備 ● 技術・技能の蓄積と伝承 	ダイバーシティ&インクルージョン
			人材育成制度
	事業活動の基本	コンプライアンスの徹底	企業倫理の徹底と法令遵守

コーポレートガバナンス (公正性・公平性・透明性を確保)

人権の尊重・人権意識

事業活動を通じた「持続可能な開発目標 (SDGs)」への貢献

2015年9月に国連サミットで、持続可能な発展のために世界が共有して取り組む17のゴール「持続可能な開発目標 (SDGs)」が設定されました。グローバル社会の要請に対し、JFEグループは事業活動を通じた貢献を目指します。



関連性の高いSDGs



JFEグループの
持続的な成長と
企業価値の向上

課題への取り組みが
目指すもの

持続可能な
社会の実現に貢献

JFEプラリソースのCSR重要課題

当社は、JFEグループが特定したCSR重要課題を主軸とし、具体的実行テーマを設定しています。17のSDGs目標と、169の対象とするターゲットを照らし合わせ、対象とするターゲットを定め、取り組みを進めています。

JFEグループ 特定したCSR重要課題			当社の主な具体的実行テーマ	
事業活動	良質な商品の提供と お客様満足度の向上	商品安定供給	適正なバリューチェーン 小売り店網整備	
		品質確保	ISO 9001、ISO 18263 に基づく管理体制	
		研究開発の推進	商品開発体制の拡充 研究開発費利益比率2%	
		お客様ニーズへの対応	お客様選択仕様の拡大 エンゲージメント強化	
	地球環境保全	環境配慮商品の開発と提供	再生プラスチック製品の開発と商品化	
		地球温暖化防止	再生プラスチック製品適用市場の拡大	
		大気環境の保全	—	
		資源循環の推進	副産物の製品化開発	
	労働安全衛生 の確保	労働災害の防止	設備・作業の安全化への資本投入 (同一テーマの全工場実行) リスク低減ワースト5活動	
		社員とその家族の健康確保	快適職場の形成 家族参加型レクリエーション	
	多様な人材の 確保と育成	ダイバーシティ & インクルージョン	外国人の雇用 表示・掲示の多国語化	
		人材育成制度	個人別人材育成シートを用いた 社内外教育計画	
	事業活動 の基本	コンプライアンスの 徹底	企業倫理の徹底と法令遵守	多岐にわたるテーマの内部監査 事例教育

SDGs目標		対象とするターゲット	
7	エネルギーをみんなに そしてクリーンに	7. 2	再生可能エネルギー割合大幅拡大
		7. 3	エネルギー効率改善率倍増
9	産業と技術革新の基盤をつくろう	9. 4	環境配慮技術プロセス導入拡大
10	人や国の不平等をなくそう	—	—
11	住み続けられるまちづくりを	11. 6	都市部環境影響軽減
12	つくる責任つかう責任	12. 1	持続可能な消費と生産プログラム (低炭素型ライフスタイル・社会システム確立)実施
		12. 4	製品ライフサイクルでの環境配慮・健康環境悪影響を最小限
		12. 5	予防・削減・リサイクル・再利用で廃棄物排出大幅削減
		12. 6	持続可能性定期報告
13	気候変動に具体的な対策を	13. 1	気候変動・自然災害弾力性・適応力強化
17	パートナーシップで目標を達成しよう	—	—
6	安全な水とトイレを世界中に	6. 4	水資源利用効率改善
7	エネルギーをみんなに そしてクリーンに	7. 2	再生可能エネルギー割合大幅拡大
		7. 3	エネルギー効率改善率倍増
9	産業と技術革新の基盤をつくろう	9. 4	資源利用効率向上・クリーン技術・環境配慮技術 プロセス導入拡大
12	つくる責任つかう責任	12. 1	持続可能な消費と生産プログラム (低炭素型ライフスタイル・社会システム確立)実施
13	気候変動に具体的な対策を	—	—
14	海の豊かさを守ろう	14. 1	あらゆる海洋汚染防止・減少
3	全ての人に健康と福祉を	3. 6	交通事故半減
		3. a	たばこ規制
		3. d	健康リスク早期警告・緩和・管理能力強化
8	働きがいも 経済成長も	8. 4	経済成長と環境悪化の分断 (資源効率改善)
4	質の高い教育をみんなに	4. 4	男女の区別無く 雇用・ディーセントワーク(働き甲斐・人間らしい仕事)
		4. 5	ジェンダー格差を無くす
5	ジェンダー平等を実現しよう	5. 1	女性差別撤廃
		5. 2	女性への暴力排除
		5. 3	有害慣行撤廃
		5. 4	無報酬育児・介護・家事認識評価
		5. c	ジェンダー平等促進
8	働きがいも 経済成長も	8. 2	高レベル経済生産性
		8. 5	完全かつ生産的雇用・ ディーセントワーク(人間尊厳を保てる生産的な仕事)・ 同一労働同一賃金達成
		—	—
9	産業と技術革新の基盤をつくろう	10. 3	機会均等確保・成果不平等是正
10	人や国の不平等をなくそう	—	—
10	人や国の不平等をなくそう	10. 3	機会均等確保・成果不平等是正
16	平和と公正をすべての人に	16. 5	汚職・贈賄大幅減少
		16. 10	基本的自由保障

品質環境マネジメント

当社は容器包装プラスチックリサイクルを事業としており、企業活動自体が循環型社会の形成に資するものです。その中で、品質と環境は不可分のものであり、両方の側面を満たす活動に真摯に取り組んでいます。

品質環境マネジメントシステム

全社全部署において、品質（ISO 9001）および環境（ISO 14001）マネジメントシステムにのっとり、全社一丸となり実効ある活動を継続しています。

品質環境方針

<基本理念>

JFE プラリソース株式会社は、プラスチック・リサイクル事業を通して、環境負荷の低減を実現し循環型社会の形成に貢献します。

顧客要求事項及び適用される法令・規制要求事項を明確にし、理解し、一貫してそれを満たし、製品及びサービスの適合並びに顧客満足向上を向上させる能力に影響を与え得るリスク及び機会を決定し、顧客満足向上の重視を維持した事業活動を行います。

品質マネジメントシステムならびに環境マネジメントシステムにのっとり、すべての従業員は、一丸となって品質環境マネジメントに取り組めます。

<基本方針>

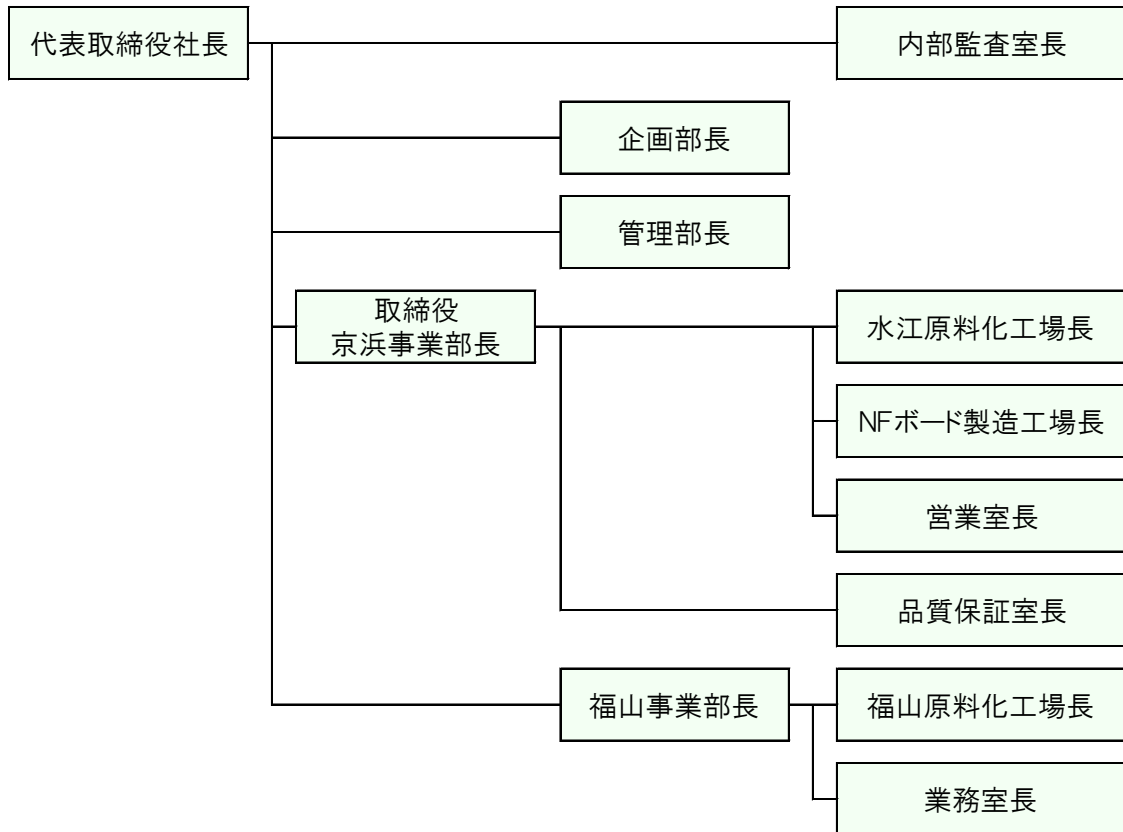
- (1) 顧客満足度の向上、環境負荷の低減を両軸とした事業活動を行い、事業の発展とともに社会コストの低減をリサイクルにより果たすという目的のため、品質環境マネジメントシステムにのっとり、品質環境マニュアルを定め、遵守し事業を行います。
- (2) 品質環境マネジメントシステムは、当社のすべての組織、すべての活動、製品及びサービスに適用します。
- (3) コンビナート、エコタウン、次世代エネルギー・パークの構成メンバーとして環境汚染を予防し、事業活動が与える環境負荷の低減、事業により成される環境負荷の低減を維持・向上・継続します。
- (4) 関連する法令、その他の要求事項を遵守します。
- (5) 品質マネジメントシステムの継続的改善、環境パフォーマンスを向上させるための環境マネジメントシステムの継続的改善を推進します。

2018年4月1日

代表取締役社長 田村 望

品質環境マネジメント体制

品質環境マネジメント体制は、各部署長にその責任を置き、全社・部署ごとのすべての活動、製品及びサービスが顧客満足の向上及び環境負荷低減の維持・向上・継続に対し機能するよう整備しています。



認証取得

2017年8月、品質マネジメントシステム（QMS）ISO 9001:2015と環境マネジメントシステム（EMS）ISO 14001:2015の第三者認証を取得しました。

【適用される製品、プロセス又はサービス】
 使用済みプラスチックを原材料とした再商品化製品の製造、販売
 再商品化製品を原料とした再商品化利用製品の製造、販売

ISO 9001



ISO 14001



全員参加の取り組み

品質環境マネジメントシステムの有効性を保つべく、以下の確認表を全職場に掲示し、全従業員に対しマネジメントの「見える化」を行っています。会社のすべての組織で、すべての階層で、さらには従業員個々においても、P D C Aサイクルが遅滞なく確実に行われるよう体制を整備し、推進しています。

品質マネジメントシステム ISO 9001:2015

P:Plan D:Do C:Check A:Act

<p>6. 製造現場:第4章(守るべき事柄)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 掲示・表示・指示文書の責任の明確化 2) 技術標準、作業標準の整備、見直、遵守 3) 工程の異常報告と是正 4) 製品の識別、不適合品の識別 5) 製品の置場、不適合品の置場 資材の受入品/払出品置場 明確化 <p>D ↓ 不適合品の混入、流出ゼロ</p>	<p>3. 評価:第9章</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 製品:ISO18263に準じた証明書 *製造現場状態 2) 顧客満足:訪問・記録 3) 活動:改善フロー(PDCA)分析・評価 <p>C A ↓ 内部監査、マネジメントレビュー、改善 ↓ 事業部長会(ISO会議体)</p>	<p>7. 社長の約束事項:第5章</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 説明責任:マネジメントレビュー 2) 方針、目標と戦略的な方向性の両立 3) 対話、教育・訓練の実施 4) 経営資源の効果的投入 5) 「適合」の重要性を社員に伝える 6) 意図した成果達成(改善) 7) 伝達・教育・訓練の指揮、支援 8) 管理者の役割を支援する
<p>2. リスク・チャンスへの取り組み:第6章</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 達成への確信を与え、改善を成す 2) 望ましい有利な状況(チャンス)は増大 3) 望ましくない影響は防止/低減 品質目標(測定可能、監視、伝達各項目) 事業部ごとに設定・更新 <p>D ↓ 計画表:事業部長会が進捗報告、変更 事業部ごとに設定・2回/年報告</p>	<p><u>意図した成果(達成すべきこと)</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 顧客との契約を守る 2. 不良品を流出しない 3. PDCAを実行する 各実行、システム自体 	<p>4. 改善:1回/年以上行なう:第10章</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 意図した成果(左記)の達成 2) 顧客要求(仕様)の遵守、満足度の向上 3) 本システムの評価と継続的な改善 <手段:内部監査、実行の分析・評価> <p>A ↓ 1) 適合/不適合の評価 2) 有効性の評価(各実行、システム自体) ↓ 不適合処置、マネジメントレビュー、改善</p>
<p>5. 運用(するもの):第8章</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 製造:QC工程表、技術標準 2) 外部委託:規程、契約(外注、購入) 3) 顧客:販売契約、注文書、議事録、 訪問記録 4) 設計・開発:研究開発計画・進捗・完了 5) QC:工程内の分析・秤量機器 QA:ISO18263順じた識別、製品秤量 6) クレーム報告書、異常兼是正報告書 <p>D</p>	<p>1. プロセス運用:受注から出荷:第4章</p> <p>顧客の要望・引合・契約 ↓ 生産計画 ↓ 製造:QC工程表、技標、作標どおり ↓ 検査:第3者分析等・出荷</p> <p>P</p>	<p>8. 資源:第7章</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 人 2)インフラ 3) 必要な(生産・製品・サービス)環境 4) 適合の監視(QC)、測定(QA含む) 5) 知識:教育 6)力量:訓練 7) 方針、自らの貢献、不適合の認識 8) コミュニケーション 内部:行事、ハローロール 外部:HP 9) 文書:情報 作成と更新および管理

環境マネジメントシステム ISO 14001:2015

P:Plan D:Do C:Check A:Act

<p>6. 製造現場:第4章(守るべき事柄)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 掲示・表示・指示文書の責任の明確化 2) 技術標準、作業標準の整備、見直、遵守 3) 環境異常:処置・報告・是正 4) 環境測定、ハローロール <p>D ↓ 法令違反ゼロ(法令遵守) 著しい環境側面の監視・緩和 法令数値(パフォーマンス)向上</p>	<p>3. 評価:第9章</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ハローロール *製造現場状態 2) 環境パフォーマンス情報のHP開示 3) 有効性:評価 <p>C A ↓ 内部監査、マネジメントレビュー、改善 ↓ 事業部長会(ISO会議体)</p>	<p>7. 社長の約束事項:第5章</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 説明責任:マネジメントレビュー 2) 方針、目標と戦略的な方向性の両立 3) 経営資源の効果的投入 4) 「適合」の重要性を社員に伝える 5) 意図した成果達成(継続的改善) 6) 伝達・教育・訓練の指揮、支援 7) 管理者の役割を支援する
<p>2. リスク・チャンスへの取り組み:第6章</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 達成への確信を与え、継続的改善を成す 2) 望ましい有利な状況(チャンス)は増大 3) 望ましくない影響は防止/低減 環境目標(測定可能、監視、伝達各項目) 事業部ごとに設定・更新 <p>D ↓ 計画表:事業部長会が進捗報告、変更 事業部ごとに設定・2回/年報告</p>	<p><u>意図した成果(達成すべきこと)</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境法令を守る 2. 著しい環境側面 (社会に多大に影響する環境要因) を監視・緩和・向上する 3. PDCAを実行する 各実行、システム自体 	<p>4. 改善:1回/年以上行なう:第10章</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 意図した成果(左記)の達成 2) 環境パフォーマンスを向上させるため 本システムの評価と継続的な改善 <手段:内部監査、実行の分析・評価> <p>A ↓ 1) 適合/不適合の評価 2) 有効性の評価(各実行、システム自体) ↓ 不適合処置、マネジメントレビュー、改善</p>
<p>5. 運用(するもの):第8章</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 製造:環境側面・環境影響表 技術標準(異常処置) 2) 外部委託:環境上の要求事項の伝達 3) 設計・開発:環境上の要求事項の決定 4) 異常兼是正報告書 *マニュアル要求にはないが実施 <p>D</p>	<p>1. リスクへの取り組み:第6章</p> <p>環境側面の抽出 ↓ 影響評価 ↓ 1) 著しい環境側面(の監視、緩和) 2) 遵守義務の正しい遂行 3) 法令違反リスク に取組む</p> <p>P</p>	<p>8. 資源:第7章</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 力量:訓練 2) 方針、自らの貢献、不適合の認識 3) 著しい環境側面、顕在/潜在影響の 認識 4) コミュニケーション 内部:行事、ハローロール 外部:HP 5) 文書:情報 作成と更新および管理

JIS Q 9091:2016 自己適合宣言

持続可能な循環型社会を作り上げていくため限られた資源を有効に使うことが求められる昨今、容器包装リサイクル法の枠組みにおいても、環境負荷低減を目指した環境配慮設計が進んでいます。事業者における容器包装の環境配慮設計の促進と、消費者における環境に配慮した商品の選択につながることを目的として、JIS Q 9091:2016に基づく「自己適合宣言」を行い、品質マネジメントシステム（ISO 9001:2015）の追加指針としています。

適合宣言書

番号 : 0002
発行者の名称 : JFEプラリソース株式会社
発行者の住所 : 本社・京浜事業部 神奈川県川崎市川崎区水江町5番地1
福山事業部 広島県福山市箕沖町113番地
宣言の対象 : プラスチック製容器包装から材料リサイクル手法にて再商品化したプラスチック再生材料（再商品化製品）
適合規格 : 上記宣言の対象は、次の文書の要求事項に適合しています。
JIS Q 9091:2016
品質マネジメントシステムープラスチック再生材料ー
事業プロセスパフォーマンスに関する指針
平成28年10月20日制定

宣言 :

JFEプラリソース株式会社は、プラスチック製容器包装から材料リサイクル手法にて再商品化したプラスチック再生材料（再商品化製品）について、以下を宣言します。

(1) 品質確認

- 1) 出荷する再商品化製品の品質確認を実施します。
- 2) 品質管理基準を定め品質管理を実施し、基準に合格したもののみを製品とします。
- 3) 製品品質の推移を監視します。

(2) 品質の安定性

- 1) 製品のサンプルを品質管理基準に基づき保管します。
- 2) 機器の運転状況を適切に監視します。

- 3) 機器の点検・保守を適切に行います。
 - 4) 落札した各保管施設からのベール内容（異物、汚れ等）を把握し、再商品化したプラスチック再生材料（再商品化製品）の品質安定化を図ります。
 - 5) 規格外品の混入を防ぎます。
- (3) 保管管理
- 1) 原料及び製品を、保管管理基準に基づき適正に保管します。
 - 2) 原料は、飛散や増湿を防ぐ処置を行います。
 - 3) 原料及び製品の在庫、保管状況を管理します。
- (4) トレーサビリティ管理
- 1) 原料の受入日、市町村、数量を記録します。
 - 2) 製造におけるマテリアルバランスを管理します。
- (5) 禁止物質管理
- 1) 特定顧客向けに製品販売を行う場合には、二者間で取り交わした納品仕様書等に規定した要求事項を遵守します。
- (6) 安定供給
- 1) 安定供給に努めます。
- (7) 測定機器の校正頻度
- 1) 社内測定器は、管理基準を定め、校正を含めて管理します。
- (8) 再商品化製品製造量当たりの二酸化炭素排出量
- 1) 再商品化における二酸化炭素排出量を管理します。
- (9) 再商品化製品製造量当たり水消費量
- 1) 再商品化における水資源使用量を管理します。
- (10) コンプライアンス
- 1) 公益財団法人日本容器包装リサイクル協会の定めた「プラスチック製容器包装再生処理ガイドライン」を遵守します。
 - 2) 法令に基づき必要な許認可を取得し、適用される法令を遵守します。
 - 3) 情報セキュリティ管理体制を構築しています。
- (11) 保険
- 1) 建物、設備、その他資産に関する火災保険などに加入しております。
 - 2) 従業員の損害賠償責任保険に加入しております。

代表者の署名 : 田村 望

発行日 : 2017年12月1日（改定日：2018年6月12日）

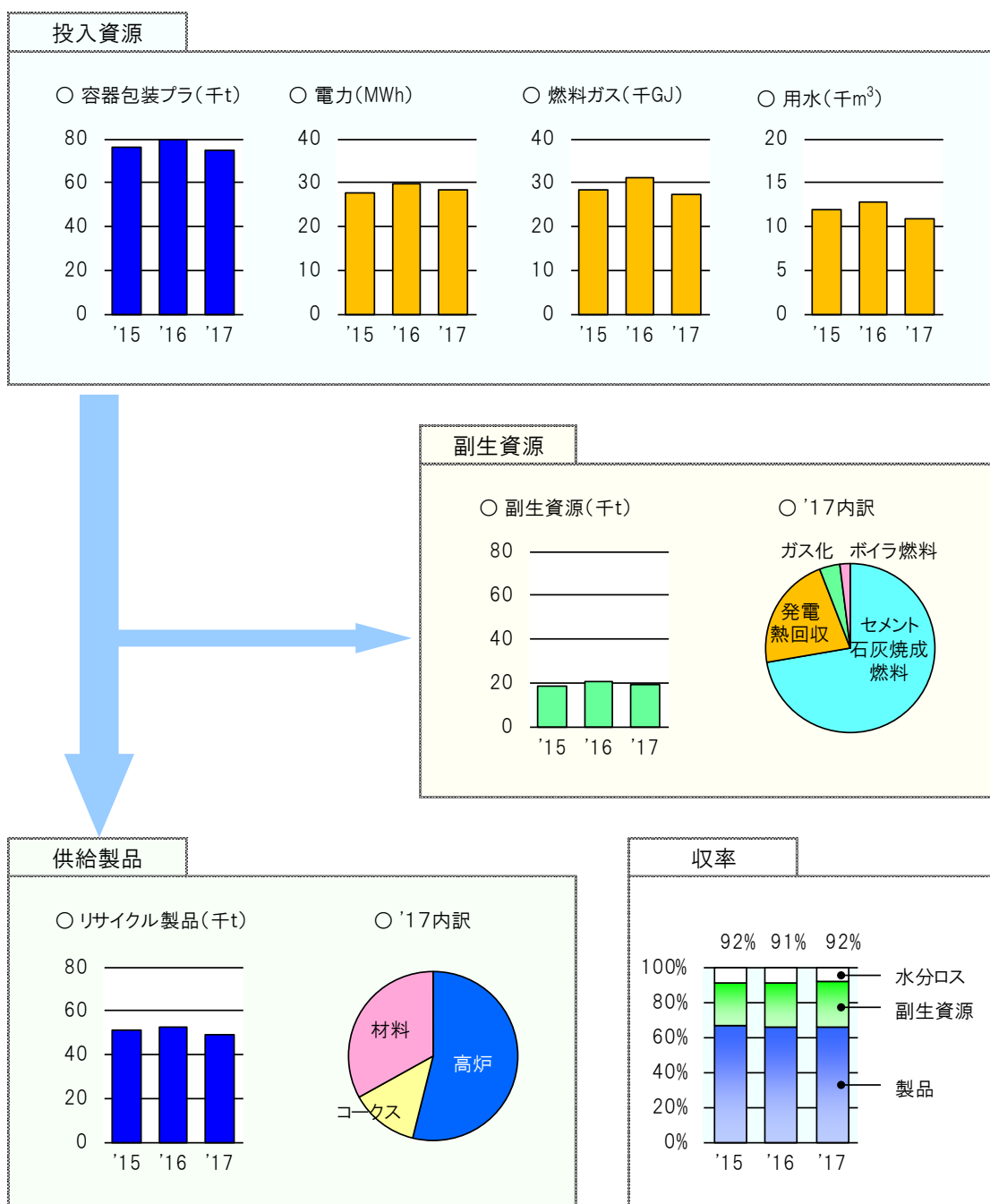
発行場所 : 神奈川県川崎市川崎区水江町5番地1

環境への取り組み

容器包装プラスチックリサイクルの材料フロー

一般家庭から排出された容器包装プラスチックを原料として、「高炉還元剤」、「コークス炉化学原料」、「材料リサイクル」のリサイクル製品を製造しています。

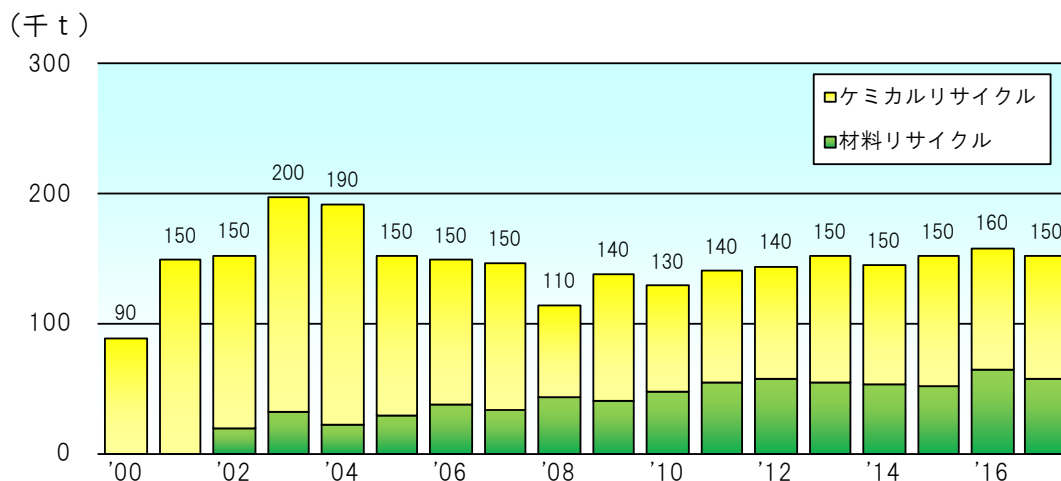
リサイクル製品の収率は約 66%です。約 25%の副生資源は、セメント・石灰焼成燃料等に利用される他、ガス化リサイクルもされています。両者を合わせた総合収率は90%を超え、水分ロス以外のほぼ全量が有効利用されています。容器包装プラスチックリサイクルは、優れたリサイクル手法であると言えます。



容器包装プラスチックリサイクルによる環境負荷削減

当社の行う容器包装プラスチックリサイクル事業は、CO₂排出削減に大きく寄与しています。以下に、リサイクル手法毎の評価方法による削減効果を算出しています。2017年度のCO₂排出削減量は150千tとなり、これは一般家庭の年間排出量のおよそ4万3千世帯分に相当します。

➤ 容器包装プラスチックリサイクルによるCO₂排出削減量



➤ 算出方法

ケミカルリサイクル

環境省「温室効果ガス総排出量算定方法ガイドライン」

Ver.1.0（平成 29 年 3 月） による

材料リサイクル

公益財団法人日本容器包装リサイクル協会「プラスチック製容器包装

再商品化手法に関する環境負荷等検討」（平成 19 年 6 月）

同「プラスチック製容器包装リサイクル環境負荷削減効果の

インベントリーデータの更新」（平成 29 年 1 月） による

JFE プラリソース株式会社は、これからも持続可能な循環型社会を作り上げていくため、限りある資源を有効に使い、企業活動において環境負荷低減・削減に努めることを宣言します。

環境に優しい再生可能エネルギーへの取り組み

グリーン電力購入

2015 年度より、京浜事業部水江原料化工場・NF ボード製造工場と福山事業部福山原料化工場の3工場にて、グリーン電力購入を行っています。

環境省の推進するグリーン電力購入システムとは、自然エネルギーにより発電された電力（風力・太陽光・バイオマス）の「環境付加価値」を、証書発行事業者が第三者機関の認証を得て、「グリーン電力証書」の形で取引する仕組みであり、証書発行事業者を通じて発電設備の維持・拡大などに利用されるものです。

各工場の使用電力の一部をグリーン電力でまかなうことにより、環境にやさしい再生可能エネルギーの普及・拡大を支援しています。

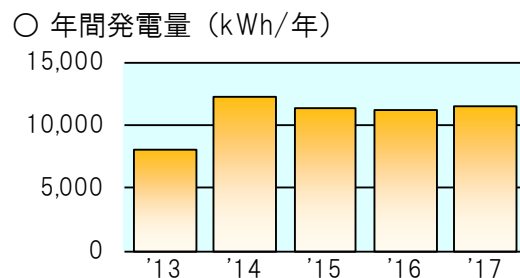


太陽光発電

グリーン電力購入に加え、「私たちにできること」への取り組みの一環として、福山事業部では 2013 年 8 月より、12kW の太陽光発電設備を設置しています。これは一般家庭約 4 世帯分の消費電力に相当します。工場入口のソーラーパネルの前には、ばらを植樹し、来訪者の方々との環境コミュニケーションに繋がる工夫もしています。



福山市は 100 万本のばら咲く町
当社も取り組んでいます



■ 私たちが継続する環境コミュニケーション活動

■ グリーン推進隊活動

京浜地区（東）・福山地区（西）の全社で、グリーン推進隊活動を行っています。推進隊を中心とした全従業員参加型のグリーン活動で、花壇に季節ごとの色とりどりの花や緑を植栽しています。夏には、野菜を育て、味覚を楽しむことも～ 品種の選定から花壇づくり・日々の手入れ、社内で回覧する“花壇日記”の執筆など、各人が得意とすることを分担して進めています。

最近では、見学者や近隣のみな様から、声をかけて頂くようになりました。環境美化を通じたコミュニケーションは、当社にとって重要な位置づけのひとつです。



■ 公道クリーン活動

毎月1回の公道クリーン活動は、当社発足以来継続している活動です。工場敷地とつながる周辺地域を合わせて美化を進めることで、地域に根ざした環境コミュニケーションに努めています。

環境情報の公開・発信

環境に係わるデータ公開

当社HPでは、施設の維持管理記録を公開しています。管理値を設定し取り組み、各月の実績を毎月更新しています。

目的	区分	項目	単位	管理値	至近の測定実績				測定頻度	備考		
					4月	5月	6月	7月				
水江	公害防止	①大気(1系)	ばいじん	g/m ³ N	0.095以下	-	-	0.010	-	3ヶ月毎 (6、9、12、3月)	ライン毎	
			硫酸酸化物	m ³ N/h	1.37以下	-	-	0.10	-			
			窒素酸化物	ppm	218以下	-	-	15	-			
		①大気(2系)	ばいじん	g/m ³ N	0.095以下	-	-	0.005	-			
			硫酸酸化物	m ³ N/h	1.37以下	-	-	0.01	-			
			窒素酸化物	ppm	218以下	-	-	5	-			
	②側溝滞留水	pH	-	5.8~8.6	-	-	7.3	-				
		COD	mg/L	123以下	-	-	37	-				
		SS	mg/L	152以下	-	-	140	-				
	③臭気	放地境界ペール置場	臭気	-	23以下	-	-	11	-			
			臭気	-	71以下	-	-	31	-			
	④振動	放地境界	振動	dB	57以下	-	-	39	-			
			振動	dB	71以下	-	-	63	-			
	廃棄物管理	⑥	⑥プラ廃棄物発生量	kg/t	240以下	237	275	274	327	工場全体		
			⑦プラ廃棄物熱利用効	%	79以上	79	77	75	75			
			⑧汚泥排出量	kg/t	36以下	0	2	0	3			
環境負荷管理	⑨CO ₂ 排出量	CO ₂ 排出量	kg-CO ₂ /t	260以下	226	219	218	229	毎月			
		CO ₂ 排出量	kg-CO ₂ /t	260以下	226	219	218	229				
化学物質管理	⑩	⑩消泡剤	kg/t	2.6以下	0.9	2.2	1.8	2.0				
		⑪油脂	kg/t	0.07以下	0.11	0.09	0.00	0.70				
		⑫電力	kWh/t	390以下	367	354	359	378				
用役管理	⑬	⑬Cガス	m ³ N/t	21以下	22	22	18	18				
		⑭蒸気	kg/t	25以下	0.4	0.8	0.3	0.2				
		⑮水資源	m ³ /t	0.12以下	0.10	0.10	0.09	0.11				
		⑯車両燃料	L/t	3.6以下	3.7	3.7	3.6	3.9				
		⑰	ガソリン	mL/t	25以下	19.0	29.2	22.3		25.4		
福山	管理値	至近の測定実績	4月	5月	6月	7月	0.028以下	-		-	0.018	-
							1.75以下	-		-	0.020	-
218以下	-	-	8	-								
0.028以下	-	-	0.001	-								
1.75以下	-	-	0.018	-								
218以下	-	-	15	-								
5.5~9.0	-	-	-	7.4								
123以下	-	-	-	9.1								
190以下	-	-	-	5.8								
23以下	-	-	15	-								
71以下	-	-	62	-								
57以下	-	-	-	41								
57以下	-	-	57	-								
260以下	265	297	271	284								
74以上	82	77	75	79								
56以下	22	24	25	26								
316以下	365	335	343	327								
2.7以下	3.1	2.0	2.6	2.4								
0.11以下	0.07	0.09	0.01	0.32								
390以下	426	419	406	423								
11以下	6.9	7.3	5.9	5.6								
0.13以下	-	-	-	-								
0.24以下	0.25	0.23	0.24	0.25								
4.4以下	4.4	4.2	4.2	4.3								
19以下	13.0	3.0	11.0	24.0								

グリーン推進隊からの情報発信

先に述べましたグリーン推進隊活動は自社HPトップページで紹介しています。当社に対してより一層身近に感じご理解を深めて頂けるよう、特設コーナーで発信しています。

福山地区では、福山市の次世代エネルギーパークの構成事業者として、福山市開設の同サイトに投稿し、環境活動や見学受入れの情報を積極的に発信しています。



ソーシャルコミュニケーション

お客様・お取引様とともに

品質管理・CS（お客様満足）向上

当社は2017年8月、ISO 9001:2015（品質マネジメントシステム）の第三者認証を取得し、顧客満足の向上を中心に据えた品質管理を行っています。また、ISO 18263（包装由来PP及びPE樹脂に関する規格）に基づく管理体制を構築し、規格コードに適合（合格）したもののみを製品として出荷及びNFボード[®]原料とする仕組みを遵守しています。お客様の要望に確実に応えすべく、お客様からのクレーム件数ゼロを目標として、日々の管理に努めています。

社会とのコミュニケーション

ホームページの活用

ステークホルダーのみな様との窓口として、ホームページを積極的に活用しています。事業紹介をはじめ、環境に関する維持・管理・推進活動などを公開しています。また、国内外を問わず開かれた会社づくりをめざし、英文でもご案内しています。



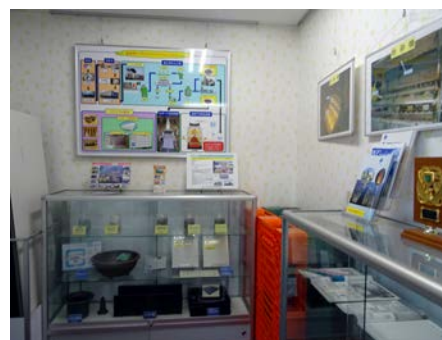
CSR環境報告書の発行

CSR環境報告書は、「どなたにもわかりやすい紙面づくり」をテーマとし、毎年発行しています。品質環境活動を始め、一年間のトピックスを紹介しています。



お客様ルームの整備

来訪されたお客様に向けて、当社製品、製品の製造フローパネルなどを展示するお客様ルームを整備しています。当社製品を原料とした成型製品を合わせて紹介し、リサイクルをより身近に感じていただける工夫をしています。



地域社会のみな様とともに

工場見学会の開催

地域社会とともに資源循環型社会をめざして、一般市民のみな様の見学を積極的に受け入れています。DVDを用いた概要説明、お客様ルームでの製品紹介、工場ラインの見学を通して、会社事業をご案内しています。見学会は、市民のみな様とのリサイクルを通じた交流会の役割も担っています。



2017年度見学実績

	件数	人数
一般	6	248
企業・団体	12	112
中央官庁	2	11
市町村	14	32
海外	2	14
計	36	417

ISO 39001 道路交通安全マネジメントシステム

福山事業部は2015年9月、JFEスチール株式会社西日本製鉄所（福山地区）とともに、ISO 39001:2012の第三者認証を取得しました。ISO 39001:2012に基づく道路交通安全マネジメントシステム：RTSMS（Road Traffic Safety Management System）を構築し、道路交通安全に関わる具体的な目標やアクションプランを作成し、PDCAサイクルにより推進しています。

交通事故に関連する負傷・損害を根絶し、地域の交通安全に貢献する活動を行うことで、社会的責任を果たすことを約束しています。2015年4月の取り組み開始以降、福山事業部の交通事故・違反ともにゼロです。今後も継続して参ります。



行政とともに

講演活動（横浜市環境事業推進委員委嘱式）

2017年5月、横浜市環境事業推進委員委嘱式（参加者約200名）において、講演しました。内容は「JFEプラリソースにおけるプラスチック製容器包装のリサイクル」です。横浜市は2011年1月、「ヨコハマ 3R夢プラン」（横浜市一般廃棄物処理基本計画）を策定し、分別・リサイクル・リデュース（発生抑制）の取り組みを進めています。活動を通じて、脱温暖化の推進、環境負荷の低減を図り、豊かな環境を後世に引き継ぐことをめざしています。

環境事業推進委員は市長から委嘱を受け、自治会などの第一線で活動を担う方々です。委嘱式の講演では、当社の事業内容だけでなく、家庭から排出されるプラスチックごみのリサイクルの意義・成果も紹介し、ご理解を深めていただきました。



エコでえ〜ことHAPPY！キャンペーン（福山市）

福山市が2013年度より推進している環境にやさしいライフスタイルの実践支援活動です。地球温暖化対策の国際ルールである「パリ協定」における日本の目標「2030年度までに、2013年度比26%の温室効果ガス排出削減」、「2050年には、80%削減」を達成するため、福山市民・事業者・行政が協働で取り組んでいます。当社は当事業発足以来、協賛するとともに、従業員各人が参加しています。草の根のエコ活動を積み上げ、皆がHAPPYになるよう、取り組みを続けています。

エコでえ〜ことHAPPY！キャンペーン

3点 世界で一つだけのオーダーメイドによる改革製品の発注権

3点 せとうちの空の緑ペーパーケット

4点

① 日本産 国産のもち麦セット (5,000円相当)
② 市内指定飲食店で利用できる食事券 (1,000円相当)
③ 市内協力店で利用できる商品券 (1,000円相当)

2017年 10/1日 ~ 2018年 2/28日

2018年 3月9日(金) [毎月開催中]
[要]
2018年 3月

「かわいちゃんコース」
① 食品ロス（食べ残し）を削減する。
② ご家庭の使えなくなった小家電電製品を持ち込む。

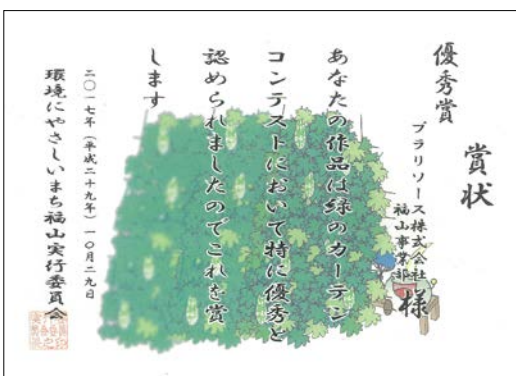
「セワレんじゅーコース」
① 経費簿の廃品回収に協力する。
② リユースマーケットを利用（売買）する。

TEL (084) 954-2619

■ 緑のカーテンコンテスト（福山市）

2014 年度から始まった福山市主催の「緑のカーテンコンテスト」において、当社福山事業部は、2017 年度は優秀賞を受賞しました。2015・2016 年度の最優秀賞に続いて、3 年連続の快挙となりました。

2017 年度は選考方法が変更され、市の環境イベントである「ふくやま環境フェスタ 2017」において来訪者が投票する形式になりました。当社の作品タイトルは「涼プラス彩（いろどり）」。緑と鮮やかな花色のコントラストを意識して、育てました。玄関横に設置して、従業員だけでなく来訪の方々にも憩いの場として和んでいただきました。



■ 川崎国際環境技術展 2018（川崎市）

今回で 10 回目の開催となる川崎市主催の環境技術イベントです。環境分野における優れた技術やノウハウを川崎から国内外へ発信し、出展企業・団体と国内外のビジネスマッチングの場を提供することを目的としています。

「川崎からはじまるグリーンイノベーション 一歩先へ、もっと先へ」をテーマに開催され、来場者は約 16,000 人でした。

当社ブースにもたくさんの方にご来訪いただき、海外の方も多くみられました。パネルやパンフレットなどを使用し、川崎生まれ・川崎育ちである当社の容器包装プラスチックリサイクル技術についてご説明しました。また、JFEグループは第1回から出展しており、今回 10 年連続出展企業賞を受賞しました。



従業員とともに ～安全は全てに優先する～

安全・衛生・防災の推進

「従業員の安全と健康の確保」、「職場・労働環境の改善」は企業の責務であり、企業が成長していく上で重要かつ欠かせない事柄です。完全無災害をめざし、全社一丸で日々の安全衛生防災活動に取り組んでいます。すべての働く者がそれぞれの立場で安全感度を高めることが、労働災害の撲滅・疾病の未然防止への相乗効果を生み出します。そのために私たちは、自分を思いやり・仲間を思いやる「けがをしない・させない」行動文化を強靱なものとするべく、年間を通して活動しています。

2018年 安全衛生防災活動方針

1. 基本理念

『安全は全てに優先する』

2. 活動目標

『各職場 災害“0”の達成』

3. スローガン

『異常時は必ず止めてKY実施』

『先手対策で守ろう仲間の安全』

4. 活動方針

- (1) 先手対策実施とワースト5活動を推進して
『安全で快適な職場を作る』
- (2) 明るい挨拶・指差呼称・5S徹底を通して
『明るくメリハリのあるきれいな職場作り』
- (3) 防災教育&訓練実施による防災基盤の強化
『全員が消火栓操法の訓練実施』
- (4) 職場の改善・心と体の健康づくりを推進して
『安全で働きがいのある職場作り』

JFE プラリソース株式会社

ひとりひとりが安全リーダー

「ひとりひとりが安全リーダー」であるとの活動を進めています。リーダーとは、「範を体現する」者を指します。会社や工場、職場はどれもひとつのチームです。チームにおけるリーダーには、安全・衛生・防災に対し高い倫理基準を持ち、ともに働く者の安全と衛生を守り、防災に不断に努めることが求められます。このことを職務上の責任としてだけでなく、「ひとりひとりが安全リーダー」であるとの心構えを持って、全員が安全・衛生・防災に取り組むことで、ともに働く者を互いに尊重するチーム（職場）づくりを推進しています。

適切な経営資源の投下

従業員の安全・健康を守るため、適切な経営資源の投下は、事業者の使命であり事業継続における礎です。毎年、優先順位を決定し、全工場において同一テーマを実行しています。2017年度は、安全で快適な職場づくりを推進する中、「つまづき対策」に重点をおきました。初見者の視点に立ち検証することで、慣れから見過ごされていたであろう足元の潜在リスクをゼロ化することに大きく前進できました。

改善内容	対策前	対策後
構造物の突起部の養生		
配管・支柱との接触養生		
設備の突起部の養生		

危険感受性向上のために

安全衛生活動は不断に継続していくことで、より安全で衛生的な集団・労働環境へと繋がるものです。加えて、環境変化に敏感であり、新たなリスク・不安全を発見し、改善していくことも肝要です。当社では、安全であることを確認するに留まることなく、見えない危険を認知・想像する危険感受性向上への取り組みに注力しています。全社で更なる安全職場達成をめざしています。

■ ワースト5活動

安全最優先のもと、危険要素を排除し・作業負荷を軽減し、働きやすい職場をつくることを目的とした「ワースト5活動」を行っています。安全に懸念がある作業・危険を伴う作業・負荷が大きい作業を職場単位でピックアップし、改善していく活動です。リスクレベルを頻度・可能性・重篤度などの項目別に評価し、優先順位づけを行います。機械化・設備化による安全度の向上や作業負荷の軽減、作業標準の見直しによる確実な安全作業方法の確立など、最適な改善策を検討し、実行しています。「ワースト5活動」は、安全で働きやすい職場づくりに資するとともに、そのプロセスにおいて潜在リスクを発見する危険感受性の向上にも有効性を発揮しています。

■ 職場パトロール

パトロールには様々な種類があります。管理監督者によるもの、職場の自主活動によるもの、また視点や目的別です。年間を通して行うこれらのパトロールにおいて、全社で共通認識としていることは「対話型」であることです。パトロールは一方向とせず、する側・受ける側が積極的に意思疎通を図り、認識を共有することで実効あるものとしています。

▶ 安全パトロール

顕在化している不安全状況・危険に対してはもちろんのこと、潜在リスクを発見するには、危険感受性を日頃から高めておくことが重要です。自社・他社のヒヤリハット事例などを全社で水平展開して安全への厳しい感性を養いつつ、不安全箇所・不安全行動を洗い出し改善するパトロールを行っています。



▶ 衛生パトロール

心身の健康を健全に保つ前提として、快適な職場環境が欠かせません。5S（整理・整頓・清潔・清掃・躰）の視点で、より快適な職場づくりを進めています。産業医によるパトロールでは、衛生面において医療従事者としての視点での指導を受けるとともに、健康管理を含めたアドバイスも受けています。



▶ 防災パトロール

災害の起点になり得る可燃物・危険物の保管状況に細心の注意を払っています。非常時に生命を守るため、避難経路を確保することは重要な課題です。水平方向・垂直方向の避難経路の確認、防災設備の点検など、漏れのないパトロールを実施しています。



▶ 品質環境パトロール

品質環境マネジメントシステムのPDCAが滞ることなく実施されているかとの視点でのパトロールも定期実施しています。適用される法令・規制要求事項や社内規定が遵守されていること・顧客満足に直結する品質マネジメントが正しく行われていることを確認しています。また、好事例（望ましい活動）については評価し、他部署に展開しています。

■ 防火管理

原料から製品まですべての工程において可燃物であるプラスチックを多量に扱う当社にとって、防火管理は重要な基盤です。日々の防火対策で火災を未然に防ぐ予防に注力しています。万一の事態に際しては、全員が適切な行動がとれるよう、職場単位での訓練を定期実施するとともに、公設消防署との合同訓練も実施しています。



成果に対して

従業員が行う業務改善提案や小集団活動を積極的に推進・支援しています。職場の安全・品質環境・効率等の課題解決から収益創造テーマまで幅広く取り組み、成果をあげています。従業員ひとりひとりの意識やレベル向上はもちろんのこと、職場内でのコミュニケーションの活性化が実を結んだ結果です。成果は、表彰制度や発表大会で全社展開され、共有されます。やりがいと成果の好循環が、現場力向上の源となり、企業の発展に大きく寄与していることを実感しています。

▶業務改善提案活動表彰

種別	基準	件数
事業部長賞	収益向上・改善・安全・品質環境・5S等で提案実施しかつ効果があった	1件
工場長・室長賞	収益向上・改善・安全・品質環境・5S等で提案し実施した	342件
提案賞	改善提案として認められる	39件
		382件

▶小トラブル&不安全状態 発見・是正活動表彰

表彰区分	安全	防災	小トラブル	計
事業部長賞	2			2件
工場長賞	31	4	30	65件
提案賞	16		13	29件
	49件	4件	43件	96件

▶小集団（職場活性化No. 1）活動

改善区分	テーマ名	件数
安全	破碎機内掻き出し作業の安全化	1件
品質	ストランドペレタイザ品質アップに挑戦	1件
能率	破碎機稼働率向上 他	10件
歩留	繰り返し故障低減 他	3件
他	濾布交換作業の効率化と作業負担軽減 他	3件
		18件

▶安全活動事例発表会

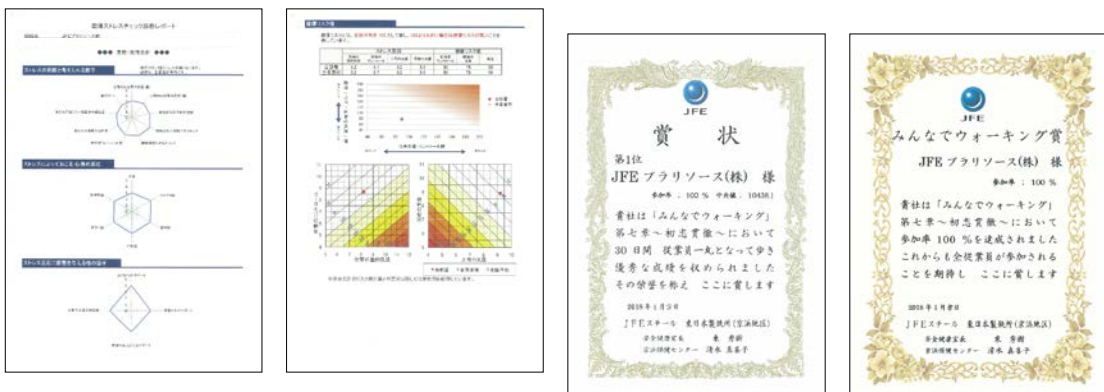
テーマ名
完全無災害継続（5年）に挑戦
安全で健康な職場作り
高所作業時の転落災害削減！！
現場作業の安全化
作業環境改善で安全文化の醸成



こころとからだの健康づくり

こころとからだは車の両輪であり、双方が健やかであることではじめて健康であると言えます。「思いやりの心が通うメンタルヘルスケア」を掲げ、活動しています。年に一度、ストレスチェックを実施しているほか、ラインケア（管理監督者による部下の不調への気付き・対応）に重点を置いた活動をしています。また、産業医と連携し、従業員の申し出に対してスピーディーにかつプライバシーを尊重して対応する体制を構築しています。

からだの健康づくりへの取り組みとして、毎年春と秋に「みんなでウォーキング」活動を実施しています。2017年度は、JFEスチール東日本製鉄所京浜地区内参加協力会社の中で、従業員参加率（100%）と各人の歩数中央値が一位となりました。職場での毎日のフェイスチェックは、ともに働く仲間の不調をいち早く発見するだけでなく、重要なコミュニケーションの場でもあります。潤いを感じられる職場運営を継続的に推進し、すべての従業員のこころとからだの健康を守ることに努めています。



2017年度 産業医講話	
4月	「運動とがんについて」
5月	「熱中症について」
6月	「化学熱傷について」
7月	「ヒアリとアナフィラキシーについて」
8月	「熱中症の傾向と対策」
9月	「長時間労働と健康障害について」
10月	「みんなでウォーキング結果報告」 「インフルエンザについて」
11月	「お酒と二日酔いについて」
12月	「健康診断結果について」
1月	「CO中毒について」
2月	「肥満について」
3月	「糖尿病について」



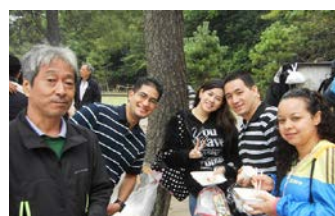
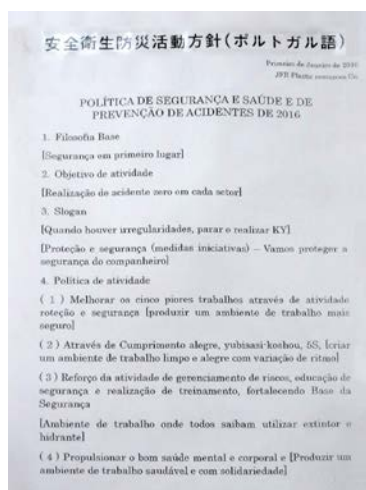
従業員とともに ～働きがい・潤いのある職場づくり～

ダイバーシティへの取り組み

ダイバーシティへの取り組みの中で中核をなすもののひとつに、「外国人従業員との関わり」があります。日本語を母国語としない従業員が、働きやすさ・働きがいを感ぜられるよう、掲示物の多国語化、工場内で使用する用具の色による識別などを推進しています。また、コミュニケーション活性化の一環として、バーベキュー大会を毎年開催し、従業員同士や家族を含めたレクリエーションで交流を深めています。JFEプラリソース株式会社は人種や国籍・性別などによる不利益を排除し、すべての人がお互いを尊重しあい働きがいを感じることでできる職場づくりを促進しています。



工場内掲示物
日本語とポルトガル語の併記



ワークライフバランスへの取り組み

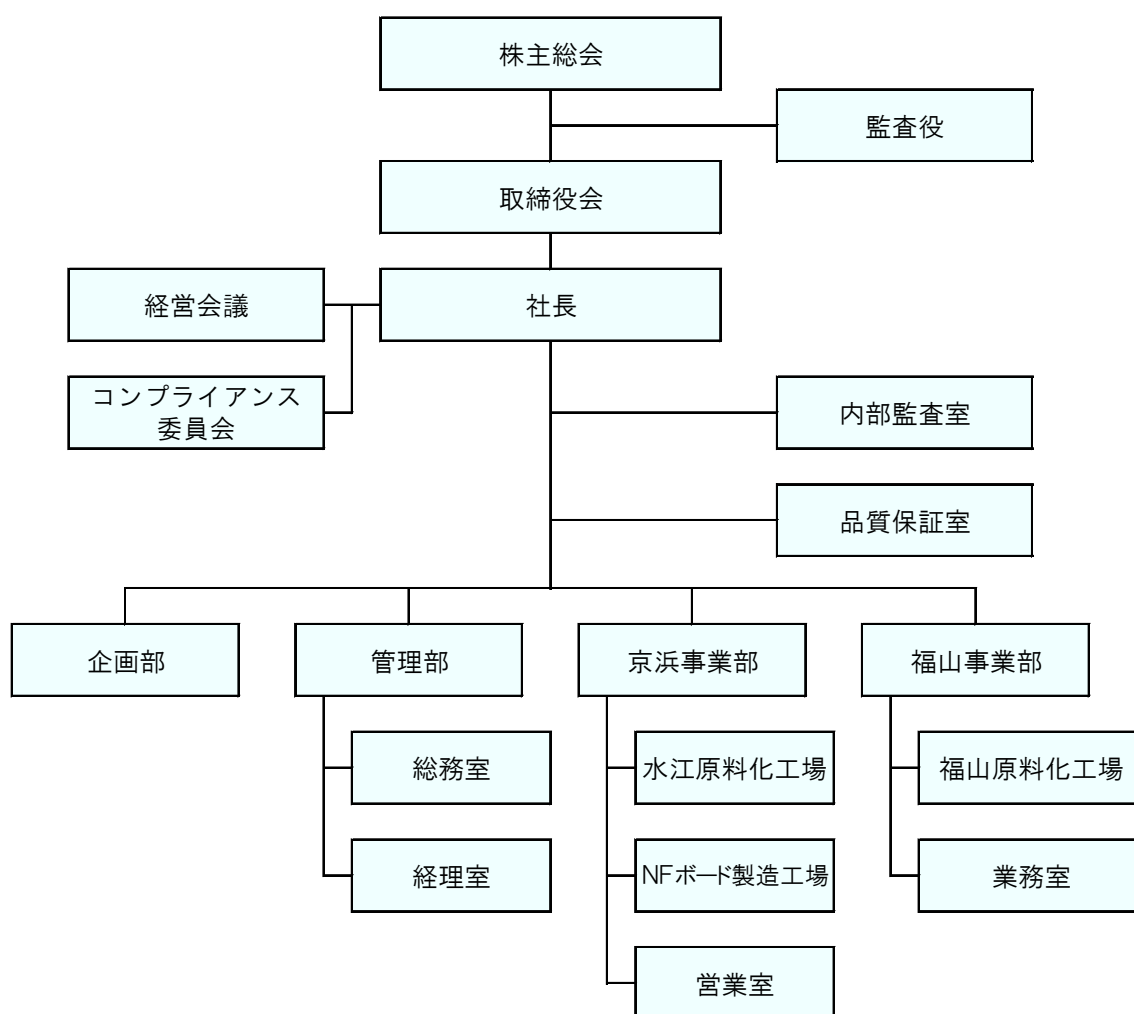
2017年10月より、個人ごとに定時退社日を設ける活動を開始しました。月に2日以上を目標に、各人が定時退社予定日を決定し、実行しています。予定の日数と日にちを「自分で決めて、自分で実行する」ことで、より効率的でメリハリのある働き方に繋がっています。活動開始後は、月2日以上の定時退社率は99%、予定どおりに定時退社をした割合は83%となっています。今後も、いっそうの働きやすさや充実感を実感できるよう、個人のライフステージやワークライフバランスを重視し尊重する取り組みを進めて参ります。

コーポレートガバナンス

JFEプラリソース株式会社は、ステークホルダーのみな様のニーズと期待に応えることを企業経営の最重要課題とし、体制を整備しています。

経営体制

スリムな経営体制を構築し、効率的に事業推進することで、競争力の強化と収益力の拡大を図っています。



内部統制

内部統制体制は、取締役会規則などの会議規程の制定、組織・業務規程の制定、企業倫理ホットラインの設置などによって整備しています。企業価値を持続的に向上するため、整備・運用状況について定期的に確認し、改善に努めています。

また、内部監査室による監査を定期的を実施し、自己チェックを進めています。

CSRマネジメント

社会を構成する一員としての企業の責任を自覚し、より良い社会の構築に向けて企業の社会的責任（CSR）を果たすべく、取り組みを強化しています。

JFEプラリソース株式会社 行動指針

JFEプラリソース株式会社の役員および社員は、「企業理念」の実現に向けたあらゆる企業活動の実践において、「行動規範」の精神に則るとともに以下の「行動指針」を遵守する。

経営トップは自ら率先垂範の上、社内への周知徹底と実効ある体制整備を行い、企業倫理の徹底を図る。

本行動指針に反する事態には、経営トップ自らが解決にあたり再発防止に努める。また、社内外への迅速かつ的確な情報公開を行い、権限と責任を明確にした上で厳正な処分を行う。

1. 良質な商品・サービスの提供

優れた技術に基づいた安全で高品質の商品とサービスの提供に努めるとともに、個人情報・顧客情報の保護に十分配慮し、お客様から高い評価と信頼を得る。

2. 社会に開かれた企業

株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを図り、企業情報について、社会への積極的な情報公開に努める。

3. 社会との連携と協調

良き企業市民として、社会との連携と協調を図り、積極的な社会貢献に努める。

4. グローバル化

グローバルな視点を持ち、各種の国際規範はもとよりそれぞれの文化や習慣を尊重し、世界の様々な人々との相互理解に努める。

5. 地球環境との共存

地球環境との共存を図るとともに、快適な暮らしやすい社会の構築に向けて主体的に行動する。

6. 政治や行政との関係

政治や行政との健全かつ正常な関係の維持・構築に努める。

7. 反社会的勢力への対応

市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは、一切の関係を遮断し、違法・不当な要求には応じない。

8. 人権の尊重

社会の人々、従業員を個として尊重し、企業活動において一切の差別を行わない。

9. 働きがいのある職場環境

従業員にとって魅力に富み、安全で働きがいのある職場を提供する。

10. 法令の遵守

法令を遵守し、公正で自由な競争に心がけ、適法な事業活動を行うとともに、健全な商慣習に則り、誠実に行動する。

■ コンプライアンス（法令遵守）の徹底

経営の最重要課題である「コンプライアンス（法令遵守）」をCSRの基本として位置づけ、社長をリーダーとするコンプライアンス委員会を開催し、以下の審議や情報交換を行うとともに、諸施策を実施しています。

- ・ コンプライアンス基本方針の審議・決定
- ・ コンプライアンス課題と対策の検討・実施
- ・ コンプライアンス事例案件の紹介と社内での周知徹底

■ 企業倫理ホットラインの運用

コンプライアンスにかかわる重要情報が現場から経営トップ（社長）に迅速かつ正確に伝わるよう、京浜地区・福山地区それぞれに「企業倫理ホットライン」を設置しています。運用にあたっては、通報・相談者の保護に関する規則を定めています。

■ 業務プロセスチェックの実施

事業を進める上で発生する契約管理・環境管理などの日々のさまざまな業務について、法令遵守状況を定期的に確認する仕組みに則り、業務の適正化に努めています。

■ リスクマネジメント

事業を取り巻くあらゆるリスクを予防し、緊急事態が起こった際にも事業を継続していけるよう、リスクマネジメントに取り組んでいます。

全社業務のリスクは、内部監査室が中心となって統括し管理しています。多様化する社会動向に対応するため、情報の収集・分析などにも注力しています。

各工場では生産業務上のリスクを洗い出し、評価・対応策を検討し、実行状況を管理しています。重要リスクを毎年見直し、各年度で重点課題を設定して継続的な改善を進めています。また、工場間の情報交換や情報共有により、全社一体のマネジメントを推進しています。

大規模災害への対応として、安否確認体制の構築・備蓄品の整備・重要継続業務リストの作成などを進め、対策の強化を図っています。

事業紹介

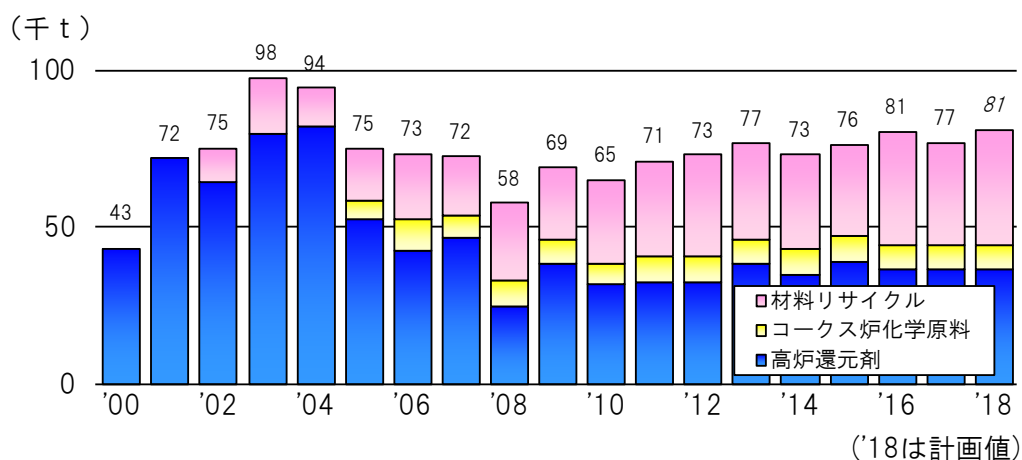
容器包装プラスチックのリサイクル

当社は、「容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律（容器包装リサイクル法）」に基づき事業を行っています。一般家庭から排出される容器包装プラスチックのリサイクルには、5つの手法が定められており、当社は2000年4月の法施行と同時にリサイクルを開始し、現在「高炉還元剤」、「コークス炉化学原料」、「材料リサイクル」の3手法を行っています。

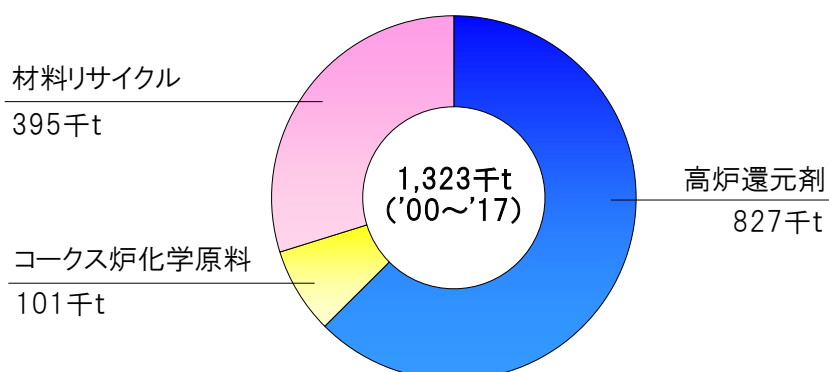
容器包装プラスチックリサイクル量の推移

2000年度の事業開始以降2017年度まで、トータル1,323千tの容器包装プラスチックをリサイクルしてきました。これは、全国総量の約13%を占めています。

▶ 年間リサイクル量



▶ リサイクル量の内訳



環境と調和した製品・サービス

使用済プラスチックリサイクル一貫システムを通じて

当社は、一般家庭から排出された容器包装プラスチックを再資源化し、NFボード®を始めとする再生プラスチック製品を社会にリサイクルすることで、循環型社会の形成を推進しています。

- 1) 一般家庭から分別排出
貴重な都市資源として、一般家庭から分別して排出されます。
- 2) 市町村の分別収集・選別・ベール化
市町村が分別収集し、異物を取り除く選別と圧縮ベール化を行います。
- 3) 当社で再資源化
当社でさらに選別/破碎/粉碎/塩ビ選別/洗浄/脱水/乾燥し、造粒/ペレット化して、再生プラスチック原料とします。
- 4) 社会にリサイクル
NFボード®などの再生プラスチック製品に加工し、社会にリサイクルします。
また、製鉄高炉で石炭代替原料として利用し、化石資源の節減に寄与します。



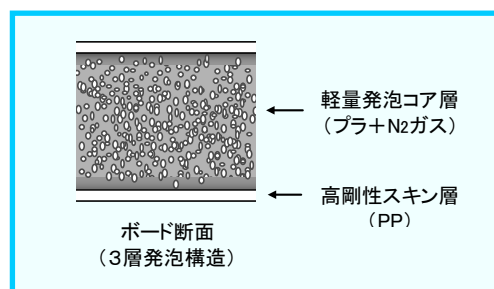
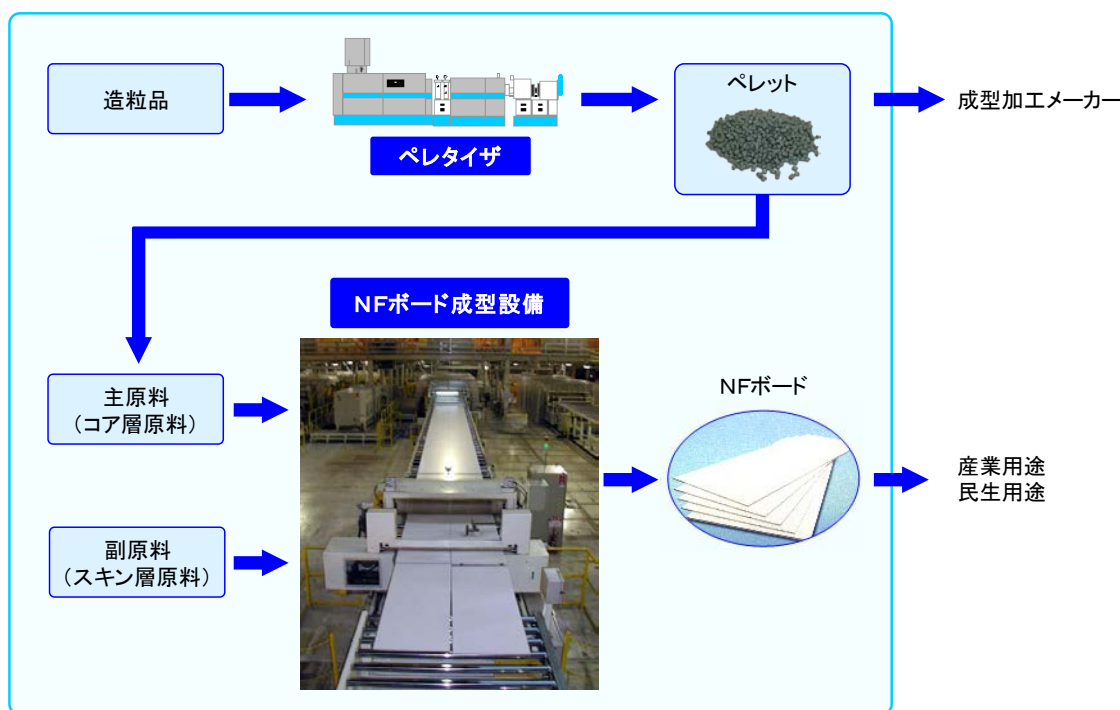
製品を通じて ～ 製品製造から回収まで ～

当社では、容器包装プラスチックの再資源化製品として、再生プラスチックボード「NFボード®」を独自開発しました。

容器包装プラスチックを再生使用した軽量発泡コア層と高剛性スキン層からなる3層構造で、優れた耐久性（耐衝撃性、耐磨耗性、耐水性、耐薬品性）・清潔性・保温性・防音性・自由な加工性（切断、穴開け、釘打ちが可能）・バージン材と同等の扱いやすさを有しています。使用用途は幅広く、農業・畜産業・水産業といった生活に欠くことのできない産業でのご活用を始め、市街では緑化下地材やスケートボード床材など、様々なシーンでご利用いただいております。

また使用済ボードは回収しカスケードリサイクルするシステムも構築し、徹底した資源循環を進めています。

今後も用途開発を継続して行い、幅広いニーズにお応えするとともに新たなご提案にも注力してまいります。



更なるリサイクル製品普及を目指して

NFボード®の更なる普及をめざし、さまざまな方法で発信・ご案内をしています。お客様とのコミュニケーションを大切にすることで、ニーズにお応えするとともに地域特性や使用用途に応じたご提案などを行っています。近年では、北は北海道から南は沖縄まで全国にコミュニケーションの輪は広がり、ご好評を頂いています。

▶ NFボード®ご使用事例



競走馬トレーニングセンター
コース壁



養鶏事業者
鶏舎内天井・壁



スケートボード場



～岩手県軽米町閉校校舎を野菜プラントへ～ 内壁材として採用頂きました。

▶ 展示会など

各地の展示会に出展しました。お客様がイメージしやすいよう、模型やパネルなどを用意し、ご理解を深めていただきました。

5月	沖縄県	第2回農水産業支援技術展 沖縄
9月	愛知県	あいくる材見本市
12月	東京都	エコプロ2017 環境とエネルギーの未来展
2月	神奈川県	川崎国際環境技術展2018
2月	北海道	2018住設建材フェア in ほっかいどう



N F ボード®の認定・認証

当社独自開発のN F ボード®は、様々な認定・認証を受けています。一般家庭から排出される容器包装プラスチックを主原料としており、環境にやさしい製品であることに加え、建築資材やD I Y資材として用途の幅広さが評価されています。

1) 海外商標登録

商標 : J F E N F - P L A B O A R D
 所掌 : 中華人民共和国 国家工商行政管理総局 商標局
 登録番号 : 18100179~18100181
 認定日 : 2016年9月16日
 所掌 : 中華民国 經濟部 智慧財産局
 登録番号 : 01793824
 認定日 : 2016年11月28日

2) かながわりサイクル製品認定

所掌 : 神奈川県
 品目 : 業務用資材・D I Y
 認定製品 : N F ボード
 認定日 : 2016年11月9日



3) 商標登録

所掌 : 特許庁
 商標 : N F エコラベル
 登録番号 : 第5812796号
 登録日 : 2015年12月11日



4) 川崎メカニズム認証

所掌 : 川崎市
 製品名称 : N F ボード
 認証番号 : 25-02
 認証日 : 2014年1月21日



5) 建設技術審査証明

所掌 : 一般財団法人日本建築センター
 技術名称 : 再生型枠「N F ボード」
 認定番号 : B C J - 審査証明 - 210
 認定期間 : 2013年9月26日~2018年9月25日



6) 商標登録

所掌 : 特許庁
商標 : NF ボード
登録番号 : 第5481636号
登録日 : 2012年3月30日



7) エコマーク

所掌 : 公益財団法人日本環境協会
商品名 : NF ボード
認定番号 : 10 118 027
認定期間 : 2010年11月25日~2020年8月31日
類型名 : No.118「プラスチック製品 Ver.2.4」



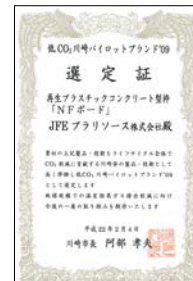
8) NETIS (新技術情報提供システム)

所掌 : 国土交通省
名称 : NF ボード
登録番号 : KT-090078
登録日 : 2010年3月26日



9) 低CO2川崎パイロットブランド '09

所掌 : 川崎市
認定製品 : 再生プラスチックコンクリート型枠
「NF ボード」
認定日 : 2010年2月



10) グリーン購入

所掌 : 環境省
分類 : コンクリート用型枠
名称 : NF ボード
施工日 : 2008年3月10日





JFE プラリソース 株式会社

本社・京浜事業部

〒210-0866 神奈川県川崎市川崎区水江町5番地1
TEL 044-299-5193 FAX 044-299-5328

福山事業部

〒721-0956 広島県福山市箕沖町1-1-3番地
TEL 084-981-3160 FAX 084-981-3170

<http://www.jfe-plr.co.jp>